

西山地区

コミュニティ協議会だより

【(西風) 令和8年5月号】

発行：西山地区コミュニティ協議会

会長 中村史傳

編集 中村美也子

令和8年5月25日発行

薩摩川内市下飯町瀬々野浦 1194

TEL 09969-5-0122

FAX 09969-5-0355

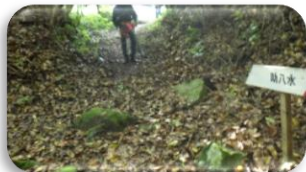
これからの行事（6月の行事予定）

- 2日 事務局会議
- 3日 健康体操
- 5日 主事会 ZOOM 会議
- 5日 衛自連総会・48 区会長会
- 8日 移動診療・支所移動車
- 16日 事務局会議
- 17日 健康体操
- 21日 健康サロン・河川愛護

他行事が入りましたら放送や掲示板にてお知らせします

助八古道整備

5/2(土) 13名の方が参加して下さり古道整備を行いました。12月予定の歩こう会に向けて数回の整備があります。ご協力のほどよろしくお願いいたします。



小学校校庭草刈り（1回目）

5/23(土) 7時から校庭草刈りを行いました。暑い中ありがとうございました。

30名の参加で1時間ほどできれいになりました。



地域防災連絡調整会議

5/13(水) 18時30分から西山詰所にて会議が行われました。13名参加され資料にしたがい山下憲一詰所長から説明を受けました。質疑・要望等では以前からお願いしている避難所である体育館の雨漏りの修理の件とコミセンに設置されている火災受信盤の交換について質疑がありました。会議終了後に非常用発電機の取り扱いの指導を受けました。

下飯ぐるっとマラニック

5/24(日) 第2回マラニックが行われました。たくさんの方にご協力いただき無事終了しました。前日の草刈りの後 準備にかかり当日も朝6時過ぎから協力して頂き「しんぬうらずし・アジの南蛮漬け・牛乳かん」をランナーの方に提供できました。案内人のボランティアの方も長時間ありがとうございました。



誘導・案内ボランティア



誘

西山通過 NO1

調理スタッフの方 朝早くから ありがとうございます
ございました。



故郷を探る

37

地域のまとまりを表わす言葉に「方限(ほうぎり)」という呼び名がある。瀬々野浦でいうと今日の「組」が該当するのであろうか。薩摩藩の時代には薩摩国飯島郡瀬々野浦村であり、この村の中に6つの方限(内川内を含めると7つ)があったようだ。

明治二十三年(一八九〇)年七月二十六日作成された区内名寄(帳)という文書がある。前年の明治二十二年町村制が施行され、手打、片野浦、瀬々野浦、蘭牟田、長浜、青瀬の各村は下飯村となり各村は「区」と呼ばれるようになった。この時代の瀬々野浦区の方限名称は今日の組名称とは異なっている。六方限名を列記すると、峠方限、開田方限、権現堂方限、古町方限、新町方限、新屋敷方限となっている。

今日の組名、反圃、小迫、的場がなく、峠、権現堂、新屋敷の方限がある。峠、権現堂は小地名として残るからだいたい分かるが、新屋敷という方限名は初めて聞く名であった。そして峠は二本線が引かれて開田に改められ、開田は反圃となり権現堂は小迫、古町、新町はそのままで新屋敷は的場と改められている。

なぜこのような改称が行われたか疑問が残るが、おそらく学校地を開くために改称が行われたのではないかと考える。西山小学校を建てるための土地づくりが明治三十五年一月から始まっている。おそらくこの前後に改称が行われたのではないだろうか。

学校地は段々畑となっていた地域で、ここに石垣を築いて埋め立ててできた土地だと聞く。村の中に新しい広大な人工の土地ができたので方限名(組名)も改編されたのだろう。

ちなみに、私の家は今日では的場組に属するが、もともとは古町川沿い辺りにあったらしい。屋号を清水川(しみずがわ)というカッコいい屋号だったらいい。文久二年の大洪水で流失したとかで現地の的場に越したということ聞いた。もしかしたら、わが家のように的場地域は新居住者が多かったかもしれない。



中村史傳